

目的 臼杵藩稲葉家の祐筆日記（大奥日記）は享和元年（1801）より明治14年（1881）までの75年間で臼杵市立図書館に所蔵されている。この日記は江戸上屋敷および役所、江戸中屋敷、江戸下屋敷、臼杵上屋敷および役所、臼杵米山屋敷に分類され、のべ120年分におよんでいる。日記の内容は日々の動静をはじめとして年間365日ほとんど毎日詳細に書かれていて、大名の生活の様相を知ることができる。本報では、臼杵藩稲葉家江戸屋敷における年中行事と食生活について報告する。

方法 江戸屋敷の日記は享和元年（1801）より嘉永6年（1853）までの53年間、のべ71年分があり、江戸上屋敷および役所、江戸中屋敷、江戸下屋敷に分かれている。まず祐筆日記の概要および五節句を中心とした年中行事と食べ物の関わりについて調べ、その他の行事としてお買初め、七種、鏡開き、とんど焼、初午、氷室、嘉祥、土用、暑入、中元、生身魂、虫干、八朔、月見、冬至、玄猪、寒入、お事初め、煤払、餅つき、年越、節分等についても調べ、江戸年中行事等の文献とも比較検討した。

結果 上巳の場合においては上屋敷、中屋敷、下屋敷とも白酒、貝尽し、菱餅、ひな菓子等がみられ、役所の日記には雛への御膳、雛菓子の詳細や菱餅の手配等行事についての段取りが記されている。端午の場合も柏餅の手配や粽の配布法など、七夕では七夕飾りの方法および素麺、瓜、西瓜などの供物、重陽では神前、仏前他20か所へ赤飯を供えるなどがみられた。七種粥、鏡開きの汁粉、氷室の水餅、生身魂の肴等特徴的なものも多い。